



2012年2月25日発行 (季刊)

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社  
〒160-0021 新宿区歌舞伎町 2-19-13 A S K ビル 601  
TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202  
E-mail npo@hitomachi.org URL : http://www.hitomachi.org  
郵便振替口座 00170-6-410791 市民シンクタンクひと・まち社

## 来るべきコミュニティへの予兆

柏木博 (デザイン評論家)

『来るべきコミュニティへの予兆——変化への知恵はあるのか』と題したセミナーを、3月13日にヴィラ・フォンテーヌ汐留で開催します。これは、2011年度から12年度にかけて、公益財団法人ハイライフ研究所における「コミュニティ」をテーマにした研究成果の発表とディスカッションです。

市場経済圏の外にある本来の社会を形成している「コミュニティ」は、さまざまな問題を解決していく知恵を持っていたはずですが、そうした「コミュニティ」の存在が、それとなく希薄となってきた現在、あらためて「来るべきコミュニティ」の姿を考えてみようという内容です。参加者たちの間での問題意識の共有と、新たな問題への可能性を探ることができればと考えています。

セミナーは、2部で構成されています。第1部は「ケアを軸としたコミュニティづくり」(長沼行太郎)、「コミュニティに果たすアートとまつりの役割」(大竹誠)、「非常時(紛争と災害)から考えるコミュニティ再生」(伊藤剛)、「過去との比較によるコミュニティ論」(柏木博)といった発表が行われます。第2部は、池田敦子さんをゲストに、パネルディスカッションになります。

この研究活動の発端は、1970年代に出版された『人間都市』(別冊都市住宅 No.1 鹿島出版会)に見られる未来にむかっ



にあります。

1960年代末から70年代にかけての時代は、ひたすら拡大、肥大する市場経済とそれを促進する巨大な技術の開発が、結局のところ豊かな生活を実現するどころか、人々を危機に追いやるのではないかという認識が広がっていきました。その結果、多様な文化を持ったコミュニティがそれぞれ特色を持ち、かつ開かれた地域社会を生み出していくべきことを提案した『人間都市』のような未来にむかっ

の提言が次々になされました。同時代に刊行された『ホール・アース・カタログ』もまた、人々が巨大な技術や肥大化した市場経済から距離をおいて、わたしたちが自立して生活し、また新たなコミュニティの可能を提案するものでした。

こうした提案は、その後、忘れ去られていきました。そうした中であって、昨年3月11日に、予期せぬ災害が起きました。地震、津波に続く、巨大な技術である原発のメルトダウンという不幸な事態が引き起こされました。その結果、さかんに「絆」という標語が繰り返し語られることになりました。

要約すれば、コミュニティの持つ知恵や力の必要性にあらためて気づいたということです。それでは、70年前後に語られた提案はいまも有効なのでしょうか。

- タイトル 第22回ハイライフセミナー  
「来るべきコミュニティへの予兆」  
変化への知恵はあるのか
- 開催日時 2012年3月13日(火) 14:00～17:30(予定)
- 参加費 無料
- 開催場所 ヴィラフォンテーヌ汐留ホール
- 問合せ 市民シンクタンクひと・まち社 03-3204-4342